

遊んでほっこり つながりカルタ

市民らから募った川柳で作った「つながりカルタ」 千種区在宅サービスセンターで



千種区社協貸し出しや出張講座用

人とのつながりの大切さをテーマにした「つながりカルタ」を、千種区社会福祉協議会が作った。市民から募った川柳を基にし、年代問わず楽しめる仕上がり。完成したかるたが今月、川柳の入選者らに千種

区在宅サービスセンターで披露された。

川柳を五月末までで募集し、未就学児から九十代までの区民から五百八十作品が集まった。そのうち三十作品を社協の事業に協力するボランティアの住民ら

が選出。愛知淑徳大の学生が川柳に合わせたためくもりある絵を寄せ、縦十二枚、横八枚の取り札にした。「どよぶひは はたけで まちあわせ じいちゃん」と「ゴミ出しの朝から始まるおつきあい」など、作

品の多くは、ほほ笑ましさを感じる一場面や日々の暮らしが描かれている。「三密を避けても心はみつみつ（密々）」のように新型コロナウイルス禍の影響を受ける社会情勢を映した一句や、交流サイト(SNS)で投稿の目印として使う「ハッシュタグ」を詠み込んだ若さが光る作品もある。社協の中島沙代さん(30)は「情景が浮かぶ作品が多く、温かい気持ちになる。つながりの大切をかるたで感じてもらえれば」と話す。

社協はかるたを二十セット用意し、希望するグループなどへの貸し出しや出張講座に応じる。千種区社会福祉協議会 052(763)1531 (山本拓海)

2022年8月23日(火) 中日新聞 朝刊12面より
この記事は中日新聞社の承諾を得て転載しています。